

The background is a light green color with several decorative elements. In the top left, there are three green circles of different sizes. In the top right, there are four green circles, including a large one. In the bottom left, there is a large, semi-transparent globe showing the Earth. In the bottom center and right, there are more green circles of various sizes. A white rectangular box with a dashed green border is positioned in the upper middle section.

道内中小企業等における環境配慮の取組

平成22年3月

北海道環境生活部環境局環境政策課

目次

建設業

加藤組土建株式会社（函館市）	03
株式会社ササキ（稚内市）	04
中塚建設株式会社（福島町）	05

製造業

共和紙業株式会社（小樽市）	06
株式会社大正製材（愛別町）	07
津別単板協同組合（津別町）	08
トルク精密工業株式会社（赤平市）	09
ニッターボー東岩株式会社（江別市）	10
株式会社プリプレス・センター（札幌市）	11
北海道カネパール株式会社（恵庭市）	12

電気・ガス・熱供給・水道

株式会社北海道熱供給公社（札幌市）	13
-------------------	----

卸売業、小売業

佐々木機工株式会社（室蘭市）	14
スエヒロ事務機株式会社（函館市）	15
十勝事務機販売株式会社（帯広市）	16
株式会社ホクラミ（札幌市）	17
株式会社マルエイ六峰社（釧路市）	18

不動産業、物品賃貸業

片桐企業グループ（札幌市）	19
---------------	----

宿泊業、飲食サービス業

鶴雅グループ株式会社阿寒グランドホテル（阿寒町）	20
株式会社満寿屋商店（帯広市）	21
有限会社ラッキーピエログループ（函館市）	22

教育、学習支援業

北海道札幌藻岩高等学校（札幌市）	23
------------------	----

医療、福祉

株式会社札幌メディカルラボ（札幌市）	24
--------------------	----

複合サービス事業

美唄市農業協同組合（美唄市）	25
----------------	----

サービス業

株式会社環境整備公社（新ひだか町）	26
道央衛生株式会社（江別市）	27
苫小牧清掃企業組合（苫小牧市）	28
株式会社ネオリサイクル（留萌市）	29

CO₂削減に取り組む運動の推進

はじめに ～ 会社（事業）の概要

私たち建設マンは、家や都市を創造することとともに、自然の保護、リサイクルについても心を費やします。地球とは未来までも友好的でありたい。資源の再利用や省エネルギーなどを通じてエコロジー＆リサイクルについて真剣に考え、地球と友好関係を結ぶ方法、その答えが【環境】であると当社は考えます。

認証取得したきっかけと経緯

平成7年に建設省（現国土交通省）から今後の建設産業の方向性が示された「建設産業政策大綱」が出され、当社ではこの政策大綱を基に将来における新たな経営戦略を策定。この中でハード中心から施工中心の言わば「総合的な建設産業」を指向。土木分野では【環境】をキーワードに平成14年度より環境事業を開始。これを受け環境対応の方針を明確にするため、平成15年度にISO14001を認証取得いたしました。

取組状況

当社環境マニュアルに規定されている、【環境】に著しい影響を与える可能性のある側面（著しい環境側面）を決定。現在、CO₂削減に係る具体的な目標を各部で立案して毎月検証を行っています。具体的にはエコドライブの実践、カーボンオフセット（営業部）、環境に対する有効な創意工夫の提案（土木、建築部）、本社におけるエネルギー実態（電気、燃料、熱使用量）の把握（環境事業部）、環境に係る情報の提供（財務総務部）が挙げられます。因みに、電気使用量、ガス使用量（特に冷暖房）の削減、車両のアイドリングストップ、クールビズ、ウォームビズを毎年継続的に実施しています。

成果と今後の課題

営業部の目標とするエコ運転（CO₂削減、燃費の向上）に関しては、毎月の数値目標をほぼクリア、他部門においても、目標値をクリアすべく努力しております。今後の課題として、CO₂削減を進めるための将来的コスト、カーボンオフセット（前年排出量 9001kl）、LED照明導入、太陽光発電装置の設置など資金面での手当、また、今年4月より施行の省エネ法改正など【環境】関係法令との整合性を考慮する必要があると思われます。

おわりに

2009年版「環境白書」において、環境と経済が持続的に発展する社会をつくる新たな環境経済対策のあり方を示していることから、環境問題は社会により大きな変革をもたらすものと考えられます。当社は、現在構築しておりますISO14001をもとに、さらなる【環境】への取組、CO₂削減に努めてまいりたいと思います。



「ボクはCO₂だよ。名前はコウジロウ、よろしくね！」

CO₂Low コウジロウ
当社 CO₂削減シンボルマーク



アイドリングストップ機能を搭載した重機



LED蛍光灯（現場事務所）



株式会社ササキ

電話：0162-32-3211 担当：営業部長 小谷 寿広
F A X：0162-32-3200 U R L：<http://www.kk-ssk.co.jp/>

地域社会と連携し環境保全活動に取り組む

はじめに ～ 会社（事業）の概要

株式会社ササキは、公共事業に携わる特定建設業の企業です。昭和28年7月、猿払村小石に当社の基盤となる佐々木組を創業以来、官公庁を主体に道路・河川・漁港・橋梁・農業の土木工事等地域社会に密着した企業として実績を重ねています。新たなる技術革新の流れの中、当社は社会環境の複雑化と共に多様化する現代社会のニーズに応じ、築き上げてきた我が社の歴史と技術を満度に生かしながら、邁進してきました。

認証取得したきっかけと経緯

企業活動が地球環境に多様な影響を与えていることを認識し、環境に対する保全活動を継続的に取り組むことが、社会から恩恵を受けている企業の使命であると考え、ISO14001の取得に取り組むこととなりました。2005年5月にキックオフし社長が宣言した環境方針を基に環境マネジメントシステムの本格的な構築が始まりました。翌年2006年2月に認証取得して以来、地域とのコミュニケーションを図りながら環境保全活動を継続的に取り組んでまいりました。

取組状況

- 1 当社の事業活動の全ての領域において環境負荷の低減を図る。
- 2 環境保全に関わる法規制及び当社が同意する外部からの要求事項を順守する。
- 3 環境マネジメントシステムの運用により、継続的な改善を図る。
- 4 教育や社内監査を通して啓発活動を行い意識の向上を図る。
- 5 環境保全活動の取組を従業員及び関係先に周知すると共に地域社会とのコミュニケーションを図る。
- 6 環境目的・目標を設定し環境負荷の低減を図る。

成果と今後の課題

環境目的・目標を達成するためにオフィス活動については電気使用によるCO₂の排出及び紙の使用による資源の枯渇の抑制、施工部門においては重機等の建設機械の燃料消費による資源の枯渇及び排気ガスの排出の抑制に取り組むことにより社員の環境保全活動に対する意識レベルの向上が図られました。また、地域社会とのコミュニケーションを図り清掃活動等にも積極的に参加し環境保全活動に対して継続的に取り組んでまいりました。今後さらに地球環境に対する負荷の低減を図るとともに、地域社会と一緒に環境保全活動に取り組んでまいりたいと思います。

おわりに

我々が取り組んでおります環境保全活動については企業の使命であると考え、常に情報収集を行い地域社会と連携を行い継続的改善を図りながら取り組んでまいりたいと思います。



オフィス活動で室内温度を20に設定しCO₂排出の抑制に取り組んでおります。



オフィス活動で排紙の裏紙を使用し廃棄物発生及び資源の枯渇の抑制に取り組んでおります。



ボランティア活動で道路清掃を行い地域の環境保全活動に取り組んでおります。



中塚建設株式会社

電話：0139-47-2053 担当：総務課長 菊地 澄男

F A X：0139-47-2816 U R L：<http://www.e-nakatsuka.com/>

キリンさんも環境対策に取り組んでいます

はじめに ～ 会社（事業）の概要

当社は公共工事を主体とした土木建設工事業を営んでおり、昭和40年の創業以来、地域に貢献できる企業を目指してきました。自社所有のクレーンにキリンのペイントを施した「キリンクレーン」は小学校で写生会のモデルになるなど、新聞・テレビでも取り上げられています。その後もトラやヒョウのパワーショベルなどが加わり、当社の工事現場はまるで動物園のようだと評判になっています。

認証取得したきっかけと経緯

当社の仕事柄、環境に対する関心は以前から持っており、まずは省エネルギーから取り組んでみようとする車のアイドリングストップや電気のかまめな消灯などに取り組んでいました。そんな時、HESの存在を知り、当社ですでに導入していたISO9001のノウハウを生かしながら体系的に認証取得ができるということで具体的な取組をはじめました。

取組状況

重点テーマを事務所で使用する電気使用量の削減と車両・重機に使用する燃料使用量の削減としました。事務所内の照明は、これまで1つのスイッチで全ての照明が点灯していたものを一つ一つの照明にスイッチをつけ、必要な明かりだけで済むようにしました。エアコンについても極力使用しないようにしています。

輸送車両についてはアイドリングストップを徹底し、資材を運搬する際にも効率的な輸送を心がけるようにしています。現場で使用する重機については、エンジンの回転数を適正なものとし、作業効率を上げることで燃料消費量を抑えるようにしています。

成果と今後の課題

事務所内における電気使用量については、初年度において大幅に削減することができました。車両・重機の燃料についても初年度は削減することができましたが、その後は受注した工事量との関係もあり予定通りにはなっていません。

今後は事業量・工事量の増減にかかわらず比較できるような方式の検討が必要となります。また、環境に関する意識を徹底することにより、職場だけでなく個人の家庭でもこうした取組が始められるようにしていかなければならないと感じています。

おわりに

現在は省エネルギーの観点から取組を行っていますが、今後は建設業者として行えることを積極的に探し、実践していかなければならないと感じています。



小学校で写生会のモデルになるキリンクレーン



アイドリングストップの取組



事務所内照明の節電



共和紙業株式会社

電話：0134-62-6211 担当：岩代 隆志

F A X：0134-62-6622 U R L：<http://www.kyowa-shigyo.com/>

当社の環境マネジメントについて

はじめに ～ 会社（事業）の概要

- 【設 立】 1949年9月
- 【代 表 者】 代表取締役会長 山崎 周三、代表取締役社長 坂下 暁
- 【資 本 金】 25,000千円
- 【営 業 品 目】 段ボール箱・印刷紙器及び関連包装資材
- 【所 在 地】 小樽市銭函3丁目503番地8

認証取得したきっかけと経緯

当時、環境問題に対応して容器包装リサイクル法が施行され、私どもの業界でも資源リサイクル、ごみ軽量化等に取り組むことは不可欠の課題となり、環境管理の規格をなんとか導入したいと考えていました。しかしISO14001は社内に専任担当者が必要であり、コストもかかります。何か他により方法がないかと思っていた時、北海道商工会議所連合会がHESを始めるという記事を見て、さっそく申し込みました。

取組状況

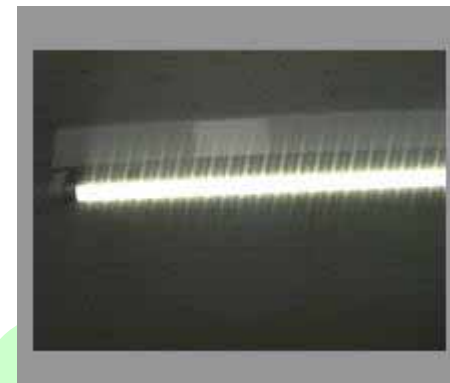
次の8項目について具体的な目標と活動計画を定め、継続的な活動を行っています。

- 分別用ごみ箱の設置
- 省資源、省エネルギーのステッカー、ポスターの掲示
- 従業員全員に対し環境への取り組み目標を提出させ、これを印刷して各自に携行させる
- シュレッダーの撤去、資源ごみとしてリサイクルする
- 全体朝礼、職場朝礼において趣旨の徹底と協力依頼
- グリーン購入の徹底
- インク等を洗浄した排水の検査を3ヶ月に1回外部機関に依頼
- 社用車を低燃費の1,500ccのタイプに順次変更

上記以外にも色々な取り組みを行っております。

成果と今後の課題

取り組み始めた当初に比べ、ペーパーレス化を進めた結果、コピー用紙が半分に減りました。経費も大幅に削減出来ました。しかし、環境経営は金がかからない、あるいはコストが削減されて儲かるものだという発想だけではやはり壁にぶつかります。今後企業は、お金をかけてでも環境改善をしていかなければならないと考えます。その成果として、当社は環境管理の取り組みを通じて、社員のモラルも高くなりましたし、大手ユーザーからも評価されています。



LED 蛍光灯の導入



シュレッダーの撤去



分別ゴミ箱の設置



株式会社大正製材

電話：01658-6-5640 担当：常務取締役 堀家 正吾

F A X：01658-6-4487

大正製材の環境改善活動

はじめに ～ 会社（事業）の概要

代表者 堀家 直利
所在地 〒078-1402 北海道上川郡愛別町字東町 195 番地
事業の内容 住宅部材製造(内壁パネル・間仕切パネル・合板加工品・木材等)

認証取得したきっかけと経緯

取引先のグリーン購入取組要請に対応するため、環境マネジメントシステムを考慮し、当社では、エコアクション 21 が一番適していると思い、2005 年 1 月より活動を開始し、2006 年 9 月に認証取得しました。(認証・登録番号 00001047)
また、北海道グリーン・ビズ認定制度には、「優良な取組部門」に、2009 年 4 月登録しました。(登録番号 E0006-3)

取組状況

主要な取組としては、
1 エネルギー資源消費削減を行い、CO₂ 排出量の削減
2 水資源(上水・地下水)投入量の削減
3 廃棄物の 3R(減量・再使用・リサイクル)の推進
上記の 3 項目に対して、削減目標を設定し、改善活動を実施しています。
また、活動の進捗状況については、毎月 1 回の環境リーダー会議で検討します。その他の取組としては、環境に配慮した製品の購入、地域への環境活動協力等に努めています。

成果と今後の課題

2005 年 1 月より、活動を始めて 5 年が経過し、主要な取組に対して、下記のような大きな成果を上げました。

項目	単位	2004年度	2009年度	削減率
①CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	99,598	66,403	△33%
②水資源投入量	m ³	278	186	△33%
③廃棄物最終処分量	kg	10,950	6,616	△40%

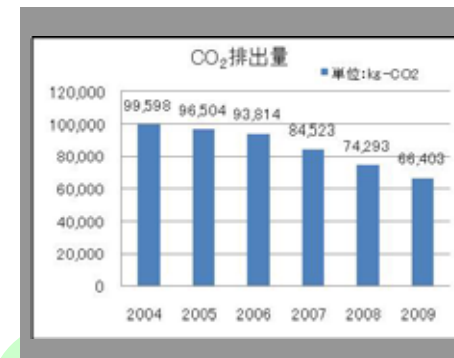
環境に配慮した製品の購入 …… 主要資材の内、木材は、「合法木材」、合板類及び接着剤は、「F4 品」事務用品については、「再生機」・「再生紙」を使用しています。
地域への環境活動 …… 子供会廃品回収、町内会清掃等に協力しています。また、近隣の住民の方々に木片(薪)を提供しています。

今後の課題

- ・ CSRを意識した環境目標の策定
- ・ 環境と経営の両立 (生産性を向上させ、環境負荷を低減。)

おわりに

当社は、環境改善活動及び 5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)活動を中心に全員参加で活動し、環境保全の推進と地域に貢献できる企業を目指していきます。



CO₂ 排出量の実績推移です。



活動の進捗状況を表で掲示しています。



コピー紙裏面活用の為、サイズ別置場設置。

津別単板協同組合

電話：0152-75-5101 担当：松本 洋

F A X：0152-75-5105 E-mai：h.matsumoto@tsubetsu-tanpan.com

住所：〒092-0203 北海道網走郡津別町字達美 167 番地

木質バイオマスで工場に熱・電供給

はじめに ～ 会社（事業）の概要

津別単板協同組合は、北海道の植林木であるカラマツ・トドマツを活用し、丸玉産業（株）と共に地産地消の針葉樹合板を製造するために平成11年に設立された。組合の役割は合板原料の単板を丸玉産業（株）合板工場に供給すること、木屑を燃料とした木質バイオマスコージェネレーションで熱と電気のエネルギーを工場に供給する仕事を担っている。

取り組むこととなったきっかけと経緯

平成19年に第二ラインが操業した。これにより合板生産増となるが排出する木屑も倍増し産業廃棄物の問題が発生する。又、必要電気・熱エネルギーも倍増しこのエネルギーの供給が問題となった。この年は、原油価格の高騰した時期に重なった。これらの問題を解決するのが木屑を燃料としたバイオマスコージェネレーションであった。化石燃料ゼロでCO₂削減・木屑産廃の削減・クリーンエネルギーの利用・高い経済性等効果が見込めた。

取組状況

平成19年度実績での取組状況を紹介します。工場より排出した木屑7万トンを燃料とし、バイオマスボイラーで高圧蒸気を発生させ、その蒸気でタービンを回し発電しその蒸気の廃熱を工場のプロセスに供給している。

電気は工場の動力源として、熱は原木の蒸煮・単板の乾燥・合板の接着・工場の暖房に利用している。工場使用エネルギーの内訳は、蒸気の熱エネルギーが工場使用総エネルギーの89%である。又電気のエネルギーは工場使用総エネルギーの10%である。熱と電気を併せて総エネルギーの99%を供給した。不足の1%は、工場保全用に電力会社より買電している。

成果と今後の課題

平成19年度実績で取組結果と成果を紹介する。化石燃料を原油換算で24,000kl/年削減した。これは北海道の一般家庭が1年間に使用する暖房灯油で16,000戸にあたり、稚内市や網走市の消費量にあたる。CO₂排出で69,000トン/年削減した。これは50年生トドマツが生育時に吸収したCO₂に換算すると、おおよそ20万本に相当する。現在は、グリーン電力設備認定を取得し、証書発行業者を通してソニー（株）に国内屈指の1,800万kWh/年のグリーン電力証書を販売している。経済効果として、従来の重油ボイラー方式では買電・油代・産廃費で多大な費用がかかるところだったが、わずかな買電で済み大きな経費の節約となった。

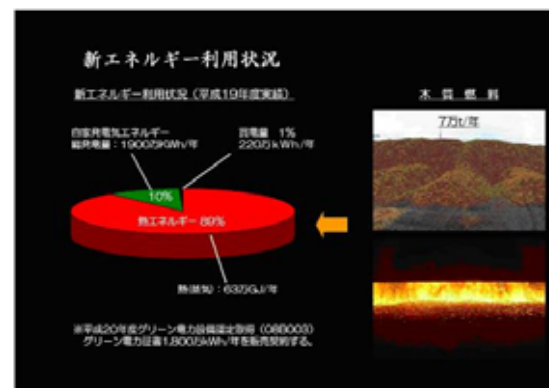
このような成果を上げて、平成20年度の新エネ大賞で「北海道知事賞」及び「経済産業大臣賞」を授賞し、平成21年度は、国の「新エネ百選」及び北海道環境財団の「温暖化防止優良事例」に認定された。

おわりに

今後、当組合は次の2点を柱にして、新エネルギーシステムを実行して行く。

- 1 木質バイオマスによる新エネルギー活用を更に進め、低炭素社会に貢献する。
- 2 地元林業と協力し木材資源を利用することで地産地消の資源循環型バイオマスグリーンサイクルを実行する。

又、当組合は丸玉産業（株）と共に、現在企業に求められている環境に配慮した物造りを進めながら「強い製造力」を身につけ皆様から信頼される企業を目指す。





トルク精密工業株式会社

電話：0125-32-5222 担当：HES推進室 松本 幸憲
FAX：0125-32-5272 URL：<http://www.torc-p.co.jp/index.htm>

当社の環境改善の取組

はじめに ～ 会社（事業）の概要

創業：昭和49年10月17日
従業員数：110名
事業内容：プラスチック射出成形加工・金属プレス加工・金型製作
製造品目：自動車搭載部品・医療関連部品・スーツケース構成部品・他、金属部品とプラスチックを合体させる複合加工も行っております。

認証取得したきっかけと経緯

環境破壊問題が世界的にますますクローズアップされ、企業における環境取組も必須な責任テーマと問われてきている昨今、当社でも欧州等の環境負荷物質規制からの影響を受ける状況が拡大傾向の中、環境への取組の必要性を感じておりました。中小企業向けとして安価で取り組みやすい北海道環境マネジメントシステムスタンダードの存在を知り、認証取得に向けた活動を決断した次第です。（HES ステップ2 平成17年11月14日 認証登録）

取組状況

毎年自社の環境影響評価を実施して取組テーマを定め、活動を進めております。

- 法令順守状況調査：定期的に法令、条例等を変更含め調査し遵法状況を確認
- 省資源：コピー用紙消費の削減・裏面の使用、様式の見直し改善、パソコンの活用（情報伝達・保存・開示）等
- 省エネルギー：電力消費の削減・生産設備の空転抑止、こまめな電灯消灯、設備ヒーター放熱対策取り組み
- 廃棄物削減（リサイクル促進）：金属廃材・・・100%リサイクル、廃プラスチック・・・自社再生、再生業者依託等
- グリーン調達促進：再生コピー用紙使用、再生紙名刺使用、環境負荷物質非含有部材の採用・購入等
- 地域環境保全活動への参画：花植え運動への参加、蘭フェスタへの協賛、工場周囲のゴミ拾い活動等

成果と今後の課題

成果

- コピー用紙の削減：5年間で56%削減（参照：右図）
- 廃プラスチック削減：廃棄率（廃棄処分量/購入量）83%削減（参照：右図）
- 電力消費削減：受注・生産量に応じ変動で評価が困難・・・全社から生産機に特化した個別テーマを検討中。

課題

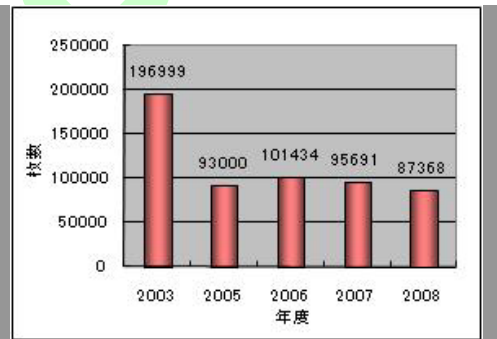
全体的なマネジメントシステムは経験も積み（PDCAを回して）運用できる体制が出来てきておりますが、環境負荷物質を管理するシステム等個別分野での仕組み強化が課題と考えております。

おわりに

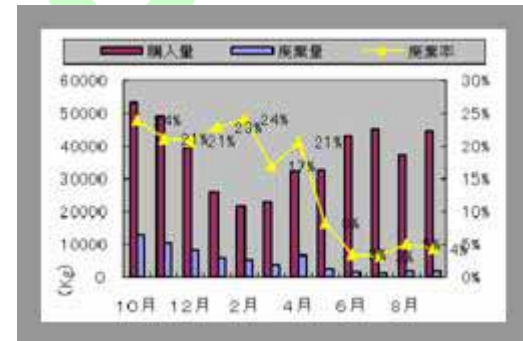
当社の取組は、地球規模から見ますと極めて微小なものですが、微小な集まりが大きな改善となると信じ、今後も活動を進めてまいります。



製造品例
自動車搭載 金属・プラスチック部品
医療検査キットパーツ、スーツケース部品



コピー用紙削減実績
取組前の半分の消費となり、維持できております。



廃プラスチック率削減（H21.10月～）
スクラップレス工法採用、自社リサイクル、再生業者開拓等の推進で廃棄率を大きく低減できました。



ニットーボーエー(株)は
環境マネジメントシステムISO14001の
認証取得企業です。

ニットーボーエー東岩株式会社

電話：011-590-8810 担当：中館 雅裕

F A X：011-590-8811 U R L：<http://www.nittobotogan.jp/>

北海道のリサイクルガラスで断熱材を製造・販売

はじめに ~ 会社(事業)の概要

リサイクルガラスを原料として住宅用グラスウール断熱材を製造。分別収集されたリサイクルガラス(びんガラス・板ガラス)を原料として、溶融・繊維化してグラスウール断熱材を製造している。2003年3月に、環境マネジメントシステムISO14001を認証取得し、継続中。

認証取得したきっかけと経緯

グラスウールは温暖化ガスを含まない断熱材で、これを使うことで省エネ・CO₂削減対策になる。また、製品が売れることで地球環境負荷の低減につながる。今後は、単なる材料販売ではなく機能も売り、断熱することのメリットを啓蒙・普及させたい。

取組状況

- 1 省エネルギー効果を持つ「グラスウール断熱材」の普及促進
- 2 電力・ガスなど消費エネルギーの削減
- 3 グラスウール廃綿の削減・再資源化・適正な処理
- 4 リサイクル原料(カレット)の活用
- 5 PRTR対象有害物質の削減計画

成果と今後の課題

- 1 「グラスウール断熱材」の普及促進は今後も継続
- 2 省エネ法による原単位(原油換算)を2002年度比7.9%低減
- 3 グラスウール廃綿発生は2008年度を基準に5%低減
- 4 硝子原料中リサイクルカレット使用比率90.0%以上
- 5 PRTR対象物質の使用量を2008年度基準で5%削減・化学物質リスクアセスメントの実施



高性能グラスウール「太陽 SUN」



「サンツーバイ 2.6」「太陽 SUN105」



工場生産ライン



株式会社プリプレス・センター

電話：011-272-6670 担当：総務部長 川向 公博
FAX：011-272-6680 URL：<http://www.pripress.co.jp/>

印刷業としてできること（当社の環境活動）

はじめに ～ 会社（事業）の概要

- 印刷事業（企画、デザイン、製版、印刷、大型サイン）
- インターネット事業（Web デザイン制作、EC サイト構築、コンテンツ制作など）
- コンシューマ事業（年賀状、挨拶状、カレンダー、デザイン CD-ROM などのコンシューマ向け商品の企画・製造・販売）

認証取得したきっかけと経緯

印刷業は、紙資源を大量に消費する製造業ということもあり、一企業として環境負荷を抑えた製造体制を構築し社会に貢献することが責務と考え、2004 年より環境活動に取り組み、同年ISO14001 を取得しました。しかし、中小企業にとって認証維持のコストは大きな負担であり、そのため、2007 年より環境マネジメントシステムを中小企業でも比較的取得・維持し易い「エコアクション 21」に変更し、環境活動を継続しています。

取組状況

活動スタート時は、「紙・ゴミ・節電」を中心に活動を行っていましたが、数年すると「紙・ゴミ・節電」だけでは活動そのものが停滞してしまい、おのずと「本業に則した活動」が必要となりました。現在「紙・ゴミ・節電」については、数値目標を設定せず、日常管理を継続実施しています。

2009 年度の活動については、「環境配慮型製品（カレンダー・年賀状）の販売数量アップ」「印刷事故の削減」を中心に仕入先や社員の家族を含めたステークホルダーに対して環境配慮活動の啓発を実施していきます。

また、2008 年 11 月に、北海道 GPN 主催の「第 1 回サミットの森づくりカーボンオフセット体験ツアー」に参加し植林を体験、12 月には、FSC 森林認証制度の「FSC/CoC 認証（認証番号 CU-COC-811067）」を取得しました。（弊社が取得した「CoC 認証」は、製造・加工・流通における認証制度で、認証された森林から産出された製品であると実証できる管理体制が認められた企業・団体に対して与えられる認証です。）

成果と今後の課題

売上高が 2003 年度 7.2 億円、2008 年度 9.5 億円と 132% 増加したにもかかわらず、二酸化炭素の排出量は、2003 年度比 84% と減少する結果となりました。

今後は、2009 年度の活動にもあるとおり、「本業に則した活動」を継続し、社内外への啓発にも力を入れていきたいと考えています。

おわりに

今後も、常に環境配慮という視点にたって「サステナブル経営」と「低炭素社会」への実現へ向けて、全社一丸となって取り組んでまいります。



サミットの森
（札幌市清田区、白旗山）



環境配慮型製品
「エコロジーカレンダー」



二酸化炭素排出量の推移



北海道カネパール株式会社

電話：0123-34-1231 担当：工場長 川村 仁
FAX：0123-34-1233 URL：<http://www10.ocn.ne.jp/~hkp/index>

エコアクション21の取組

はじめに ～ 会社（事業）の概要

北海道カネパール㈱は発泡スチロールの製造及び販売をしている会社です。
北の大地に根づいた現地密着型営業と、道内最大規模の4工場による安定供給体制をとり、皆様のご要望と信頼にお応えしています。

認証取得したきっかけと経緯

環境に関する社会の意識の高まりの中で、環境への取組推進を更に高めると同時に、生産性・歩留まりの向上、品質向上等、経営的にも効果が期待できることから、当社でも環境マネジメントシステムを導入することとし、平成19年9月エコアクション21を取得しました。

取組状況

省エネルギーを軸とした改善活動と生産設備の適切な管理及び地域とのコミュニケーションに取り組みました。

主な取組内容は以下のとおりとなっております。

- 1 ボイラー燃焼条件改善による燃焼効率化
- 2 設備の保守・点検と最適運転管理
- 3 蒸気、空気等の漏れ箇所に対する早急な対応
- 4 省エネ成型条件への見直し
- 5 工場照明の点灯・消灯の徹底
- 6 排水量低減とSS分離の徹底
- 7 廃棄物の分別再資源化の徹底
- 8 地域社会との環境保全活動参加(地元恵庭市の漁川河川敷清掃活動)。

成果と今後の課題

燃料及び電力使用量の削減と比例して、着実にCO₂排出量の削減ができています。
コンプライアンス上の関係法規等違反はありませんでした。
今後、既に導入している熱効率の高い天然ガスボイラー設備の管理を適切に行い、更に環境負荷軽減につなげます。
又環境レポートは社内に常備し要求があればいつでも公開できるようにしております。

おわりに

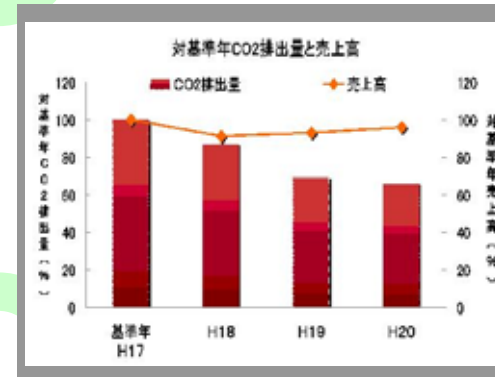
常に環境配慮という視点に立ち、生産現場の管理の徹底から今後も全社一丸となり環境負荷低減に取り組んでまいります。



北海道カネパール㈱外観



恵庭市漁川河川敷清掃活動へ



基準年(H17)を100とした場合のCO₂排出量及び売上高推移



株式会社北海道熱供給公社

電話：011-741-1311 担当：経営管理部 菅原 大輔

F A X：011-741-2266 U R L：<http://www.hokunetsu.co.jp/>

北海道環境マネジメントシステムスタンダード（HES）の取組について

はじめに ～ 会社（事業）の概要

当社は、昭和 43 年 12 月に設立され、札幌オリンピックの前年となる昭和 46 年 10 月に中央エネルギーセンターが運転を開始し、札幌都心地区の約 100 件あまりの商業施設やオフィスビルなどに高温水を一年中休むことなく供給をしております。また、平成 15 年には同都心地区内に札幌駅南口エネルギーセンターが、平成 16 年には道庁南エネルギーセンターが供給を開始し、コージェネレーションシステムによる蒸気、冷温水のほか電力の供給を行っております。

認証取得したきっかけと経緯

当社は、環境保全をビジネスモデルにしている会社であり、会社の使命・業務の活性化にとっても、より積極的な環境マネジメントシステムを推進する必要があります。このため、本社及び中央エネルギーセンターにおいて、HES の認証取得を目指すこととし、平成 17 年 9 月にキックオフを行い、3 ヶ月の運用期間を経て、平成 18 年 6 月に STEP1 の認証を取得致しました。

取組状況

本社事務所の取組としては、電気、水、紙の使用量削減、中央エネルギーセンターでは、電気、水の削減のほか、熱供給事業という特性からエネルギー効率の向上、CO₂排出量の削減、熱供給事業の啓発への取組、その他全社目標として、一般廃棄物の削減、会社周辺清掃の実施のほか、植樹活動を推進しています。取組にあたっては、各部門に HES 推進者を置き、四半期毎の運用状況について検討を行い、経営層に報告を行っております。

当社における大きな取組としては、札幌市都心部の環境性の向上やお客様に環境性の高いエネルギーの供給を図ることから、中央エネルギーセンターの環境性改善を行いました。これまでの主燃料であった石炭を、平成 20 年度をもって廃止し、クリーンな天然ガスへの転換及び木質バイオマス燃料を導入することにより CO₂削減の改善を図りました。これと併せて、食事に使用している割り箸についても、使用后、これを乾燥、木質バイオマス燃料と混ぜて、ボイラの燃料とすることで、資源の再利用、廃棄物の削減に繋げていくこととしております。

成果と今後の課題

平成 18 年～20 年において、1 つの区切りである 3 年間の活動結果では、各サイトの目標が全て達成でき、平成 21 年 5 月に更新審査を完了いたしました。

HES の活動を行っていく中で、それまではあまり環境に関心がなかった従業員が植樹活動等にも積極的に参加するなど、意識の変化も見られています。

今後、取組を継続していくと、年数が経過するとともに取組目標の達成も厳しくなってきますが、全社一丸となって改善を繰り返しながら取り組んでいきたいと考えております。

おわりに

当社では、燃料として木質バイオマスを使用しており、使った資源を森に返すといった観点からも、今後とも積極的に植樹活動を推進するほか、更なる環境性の向上を目指し、様々なアイデアを導入しながら、環境性の高いエネルギー供給を通して、地域・地球環境に貢献していきたいと考えております。



中央エネルギーセンターでは平成 22 年度に 15,000t の木質バイオマスを使用予定であり石炭が主要燃料であった時に比べ、33,000t の CO₂削減を計画しております。これは札幌市の一般家庭の約 5,000 戸分の排出量に相当します。

当社では、ボイラ燃料として使用する木質バイオマスに使用済の割り箸を混入し、ボイラの燃料とすることで、資源の再利用と廃棄物削減に繋げていくこととしております。

【木質バイオマス】 【使用済割り箸】



平成21年～23年の活動目標	
本社	電気使用量の削減
	水使用量の削減
	コピー用紙使用量の削減
中央エネルギーセンター	熱供給におけるエネルギー効率の向上
	熱供給におけるCO ₂ 排出量の削減
	水使用量の削減
全社	熱供給事業の啓発
	一般廃棄物の削減
	会社周辺清掃の実施
	植樹活動の推進